

全国小学校道德教育研究会 第43回夏季中央研修講座 参加報告

令和5年 参会（8月）または動画配信（8月）

〇はじめに

本県からは、今年度も動画配信形式での参加となった。全国から4つの実践発表のあと、分科会協議があり、それぞれに指導助言がなされた。その後、3人の講師の先生からご講演をいただいた。以下がその概要である。

1 あいさつ

2 実践発表

(1) なりたい自分を追究し続ける道德科学習 ～学びをたのしみ自律共創する子供の育成～

熊本大学教育学部附属小学校 山平 恵太

①概要

なりたい自分と価値との接点を見いだすために、「なりたい自分ノート」を道德の授業を中心に活用した。なりたい自分の姿を拡張し、個別最適な学びと協働的な学びの実現につながった。異質な他者と関わる場の設定と教師の関わり方について、課題が見られた。

②協議

- ・ なりたい自分が更新されなかった時、どのように見取って評価するのか。
- ・ 自分ノートと道德日記の違いについて。

③指導・助言：元全国小学校道德教育研究会会長 馬場喜久雄先生・鈴木邦夫先生

- ・ なりたい自分と価値との接点を見出すための工夫や、対話を通して物事を多面的・多角的に捉え、立ち止まりを生み出す工夫などのよさが見られた。今回の研究の汎用性について、検討してけるとよい。

(2) 志をもってよりよく生きる児童の育成～考え、語り合い、自己を見つめる道德科授業の実現～

東京都台東区立根岸小学校 町田 洋子

①概要

重点内容項目を設定し、指導観を明確にした授業作りや実践や教材を引き継ぐことで、学校全体で道德科授業の質の向上を図ることができた。今後は、この取組を継続していきたいと考えている。課題としては、他教科との連携をより意識していく必要があった。

②協議

- ・ 授業スタンダードの発問の工夫について。
- ・ 今回の研究による児童の変化について。

③指導・助言 元全国小学校道德教育研究会会長 吉本 恒幸 先生 ・ 高橋 妃彩子 先生

- ・ 価値理解を深める話し合いの視点については、子どもの実態に応じて選択する必要がある。深い学びをねらい、一人一人が納得解を得ることができるとよい。

(3) 自己をみつめ 他者と認め合う 小東っ子の育成 ～対話を中心とした道徳科の授業を通して～

愛知県豊川市立小坂井東小学校 吉田 安紀子 ・ 渡津 直美

①概要

授業スタイルを確立するために、ハンドサインで発言をつなげたり、トークタイムで話す力や聴く力をつけたりする活動を取り入れ、安心して授業に参加できる雰囲気をつくった。また、授業後には、授業の板書と振り返りをまとめて掲示した。誰がやっても変わらない小東スタイルをつくり、授業構想を行った。

②協議

- ・ユニバーサルデザインを意識した授業における、導入・展開・終末の時間配分について。
- ・他教科と行事をつなげるために、どんなことを意識して授業をつくっているのか。

③指導・助言 元全国小学校道徳教育研究会会長 金子 和明 先生 ・ 表迫 信行 先生

- ・学習の主体が児童になるように、一人一人が自分で考えられる授業をつくることや、児童が考える時間をしっかりと確保することが必要である。
- ・話すと同時に相手の考えを聴いて受け止めるという実践を、引き続き継続できるとよい。

(4) 他者対話と自己内対話で自己の生き方を考える

岡山大学教育学部附属小学校 大西 理沙

①概要

「他者対話と自己内対話で、自己の生き方を考える」というテーマで研究を行った。①〇〇度の活用、②オリジナルめあて、③教材との出会わせ方、④役割演技、⑤対話のイメージマップ化、といった5つの手立てを意識し、実践研究を行った。自己内対話は目に見えないものである。5つの手立てによる児童の姿や発言から、自己内対話を行っていたと推察できる。

②協議

- ・児童に設定させるオリジナルめあては、価値項目とのズレが生じる可能性があることについて。
- ・この研究による児童の変容について。

③指導・助言 元全国小学校道徳教育研究会会長 飯島 英世 先生 ・ 針谷 玲子 先生

- ・オリジナルめあての設定については、児童にめあてを設定させることの難しさがある。高学年のめあては、教師がよく考えて設定させる必要がある。
- ・対話が苦手な児童を、授業にどのように参加させ、どのように考えさせるかといった所をねらって授業を展開していくとよい。対話ができている、できていない、で分けるものではない。

3 講演

(1) 演題 「道徳授業マネジメント ―主体的・対話的で深い学びに着目して―」

講師 帝京大学教育学部 初等教育学科 教授 赤堀 博行 先生

①道徳教育の目標を明確にする

- ・学校としてどんな児童生徒を育成したいのかを明らかにする必要がある。

②重点内容項目を明確にする

- ・重点目標のポイントが道德のどの内容に関わるのかを明らかにする。

③重点内容項目に関わる具体的な指導の機会、時期の明確化

- ・「道德教育と各教科等の目標、内容及び教材との関わり」、「学習活動や学習態度への配慮」、「教師の態度や行動による感化」を意識する。

④道德教育の全体計画及び別葉の作成

- ・別葉の空白については、道德教育を道德授業で計画的、発展的に補充・深化・統合していく。

(2) 演題 「不可能は、可能になる」

講師 千葉工業大学 未来ロボット技術研究センター (fuRo) 所長 古田 貴之 先生

- ・皆がお互いの好きなことを理解し、お互いを認め合えば喧嘩することは無くなっていく。
- ・心と体がボロボロになっていても、友達がいれば世の中に連れ出してくれる。世の中は人とのつながりで循環している。
- ・みんなで助け合えば、問題を解決できる。抱え込まないで、信頼できる仲間を作る。

(3) 演題 「よりよく生きるための基盤となる道德性を養う道德教育の推進・充実」

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 堀田 竜次 先生

- ・学習指導要領の着実に実施するとともに、ICTが学校教育を支える基盤的なツールということを意識していく。
- ・個人内評価として見取り、記述により表現することの基本的な考え方として、発言が多くない児童生徒や考えたことを文章に記述することが苦手な児童生徒が、教師や他の児童生徒の発言に聞き入ったり、考えを深めようとしていたりしている姿に着目するなど、発言や記述ではない形で表出する児童生徒の姿に着目するということが大切である。

4 研修受講後所感

今年度は、動画配信形式での参加となった。各分科会では、たくさんの協議が行われ、よりよい道德授業をつくっていくための視点を学ぶことができた。また、道德教育を推進していくために、研修主任や道德主任だけが取り組むのではなく、全職員で道德教育を推進していくことの必要性も学ぶことができた。

感染症の扱いが変わり、学校生活や行事も従来の形式に戻っているが、道德教育の視点をもって、内容の精選を進めていく必要があると感じた。今回の研修を生かし、道德教育を推進していきたいと考える。